

城廻自治会と村前自治会に栄冠 「内子町自治会対抗決勝大会」

「内子町自治会対抗決勝大会」が6月2日、レクバレーは城の台体育館、ソフトボールは内子運動公園で行われました。レクバレーは、管内各自治センター代表の9チームの自治会が出場。決勝戦は、予選を僅差で勝ち上がった龍王自治会と、全勝で勝ち上がった城廻自治会の対戦となりましたが、勢いのある城廻自治会が龍王自治会を



優勝した村前自治会(上)と城廻自治会の皆さん

圧倒し、2-0で初の栄冠を勝ち取りました。ソフトボールは代表の8自治会が雌雄を争いました。決勝戦に勝ち上がったのは、村前自治会と城廻自治会。小雨が降り続く中、一進一退の試合が繰り広げられました。2-4で迎えた最終回、村前自治会が1挙に4点を取って逆転し、見事優勝を果たしました。

令和第1号の認定は内子町 「内子町歴史的風致維持向上計画」

国の認定を受けた「内子町歴史的風致維持向上計画」の認定式が6月12日、国土交通省で行われ、田中英之国土交通大臣政務官から稲本隆壽町長へ認定証が授与されました。愛媛県での認定は大洲市に次いで2番目。全国では77番目の認定に



ダイガラウス(奥)でハゼの実をひいて、ケンドでふるいにかける

木蠟生産で栄えた内子町の歴史を学ぶ「蠟搾り体験」が6月7・21の両日、木蠟資料館上芳我邸で行われ、内子中学校(片岡俊二校長)の3年生が参加しました。生徒たちは八日市護国の地区町並保存会有志の皆さんの説明を聞きな

ながら、カラサオを使ってハゼの実を分離する作業や、生蠟を水に入れて蠟花を作る工程などを体験しました。体験した山本明さんは「伝統を受け継ぐことの大切さを感じた。自分たちも学んだことを伝えていきたい」と話しました。

なります。田中政務官から「地域の誇りや自信を高めて、子どもたちにつないでほしい」との言葉があり、稲本町長が「この計画を駅伝のタスキのようにつづくりを続けたい」と答えました。



認定証を手にする稲本町長(右)と田中政務官

最もチケットが取れない落語家 立川談春さんが内子座で独演会

「立川談春独演会」(内子町文化創造事業実行委員会主催)が6月15・16の両日、内子座で開かれました。内子座では2年ぶり、2度目の独演会。今回もチケットを完売する人気ぶりで、2日間で895人が来場しました。芸歴35周年を迎える

談春さんは、「年齢を重ねるごとに話と語り口が合い、味が出る」と言い、「双蝶々」と「かぼちや屋」を披露。熟練の話術で観客を魅了しました。観覧した男性は「長い話だけど、それを感じない。引き込む力がすごい」と満足そうに話しました。



テレビなどでも人気の立川談春さんが内子座の高座にのぼる

優勝は大瀬中央大久保チーム 「内子町長杯クロケット大会」

老人クラブ会員の健康増進と交流を目的に「内子町長杯クロケット大会」(内子町・内子町老人クラブ連合会主催)が6月18日、城の台公園で開かれ、49チーム・約200人が参加しました。各チームは10コートに分かれて予選を行い、決勝トーナメント進出を争いました。参加者は指示を出し合いながら戦略的にボールを動かしたり、

失敗して大声を上げたりとボールの行方に一喜一憂。楽しそうに、爽やかな汗を流していました。優勝した大瀬中央大久保チームの主将・宮本昌明さんは「みんなで勝ち取った。チームワークの勝利」と仲間を称えました。上位2チームは、10月24日に愛媛県総合運動公園で開かれる、愛媛県老人クラブスポーツ大会に出場します。



調印式に出席した四国学院大学と内子町の関係者

文化・芸術による地域振興を目的に 四国学院大学と内子町が協定を締結

四国学院大学と内子町が包括的連携・協力協定を締結し、6月20日に内子座で調印式を行いました。同大学は中四国で唯一、本格的に演劇を学ぶことができ、内子町とも演劇を通じて交流を深めてきました。今後は年に数回、滞在型の創作活動

を行いながら、演劇公演などをする予定です。末吉高明学長は「香川県外で連携協定を結ぶのは内子町が初めて。町の人たちとの交流は、学生の成長にもつながる。地域社会の役に立って、大学の使命を果たしたい」と思いを語りました。



1_令和最初の優勝を手にした大瀬中央大久保チームの皆さん 2_一打一打で流れが変わる面白さ

	31年度	30年度	増減率
収益的収支(収入)	300,713	285,980	5.2
収益的収支(支出)	300,713	285,950	5.2